松川事件の現場

昨秋、日本財政学会が仙台であり、時間をやりくりしてＪＲの普通列車で福島方面に向かった。かねてから「松川事件」の現場が、どのような場所かを自分の目で確かめたかった。列車の先頭に立って、いくつかの写真を撮った。列車に揺られながら撮ったので、あまり出来はよくないが。

「松川事件」に興味をもったのは、信州大学時代である。前にレポートでも書いたように、友人の奥野君と山本薩夫監督による「松川事件」の映画上映会を信大人文学部の講堂で行ったこともある。講堂が一杯になったときの感動は今でも忘れられない。

映画は 2 時間 42 分の大作であり、弁護士役の若き宇野重吉・宇津井健をはじめとして、そうそうたる俳優が出演している。この映画はのちに松川運動記念会によりビデオ化され、10 数年前に購入した。そのビデオの説明書から、「松川事件」を簡単に紹介していこう。

1949（昭和 24）年 8 月 17 日の未明、東北本線金谷川・松川両駅間で、上り旅客列車 412 号が脱線転覆し、機関車乗務員 3 名が死亡した。時の内閣官房長官は談話を発表して、三鷹事件などに関連する思想的犯罪であることを示唆した。1 ヵ月後、警察当局はこの事件が、国鉄労組と東芝松川労組の共同謀議によるものとして、20 名を逮捕した。赤間被告の強制自白から出発して、いったんは 5 人の死刑、5 人の無期懲役などの判決が下ったが、13 年間にわたる裁判闘争により、ついに無罪を勝ち取ることができた。

この映画は脅迫と拷問がデッチあげた恐怖の裁判をリアルに描いたものだ。「松川事件」の現場を走り抜け、改めて歴史の一断面を心に刻むことができた。

（2005 年 1 月 23 日　記）